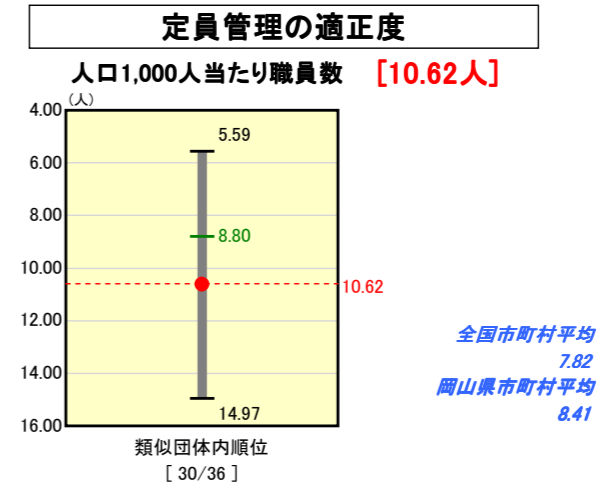
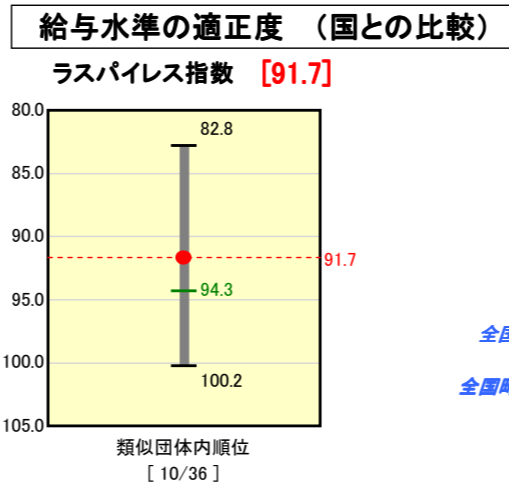
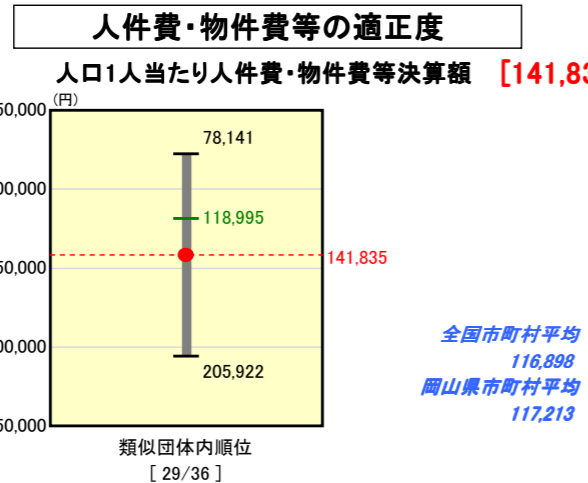
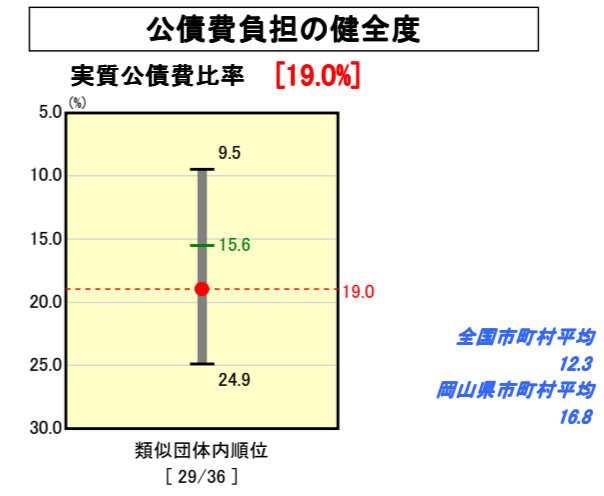
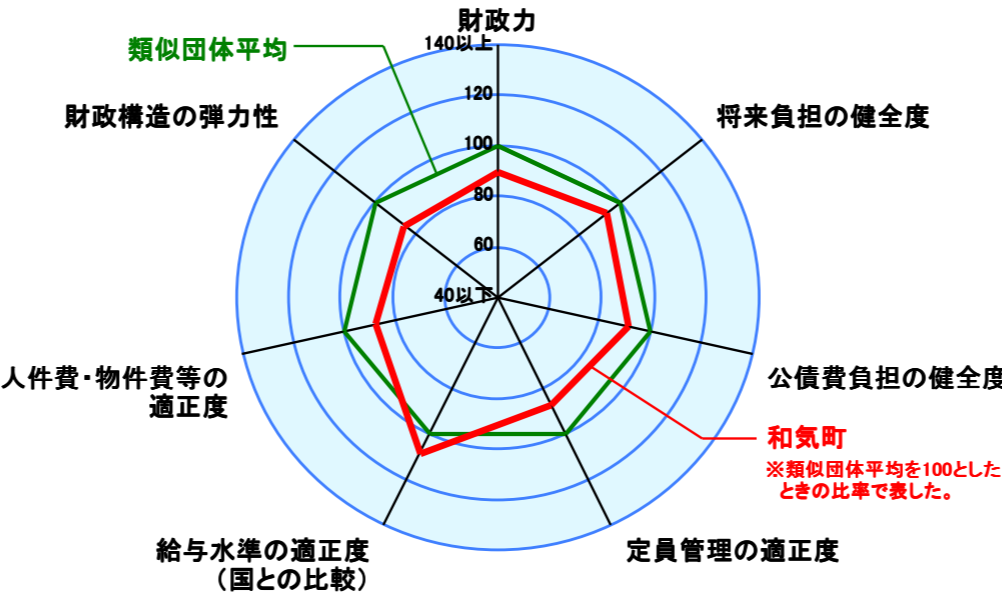
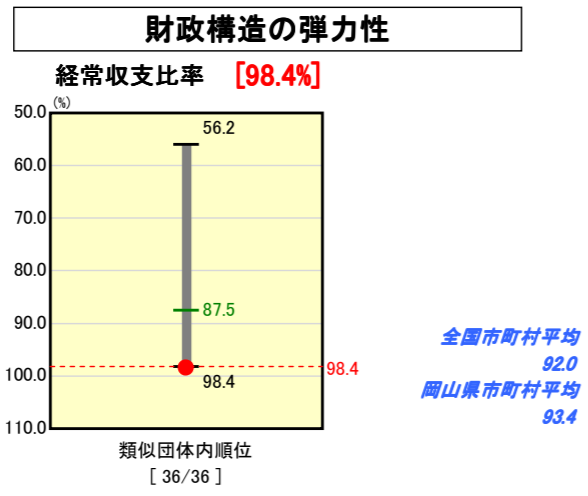
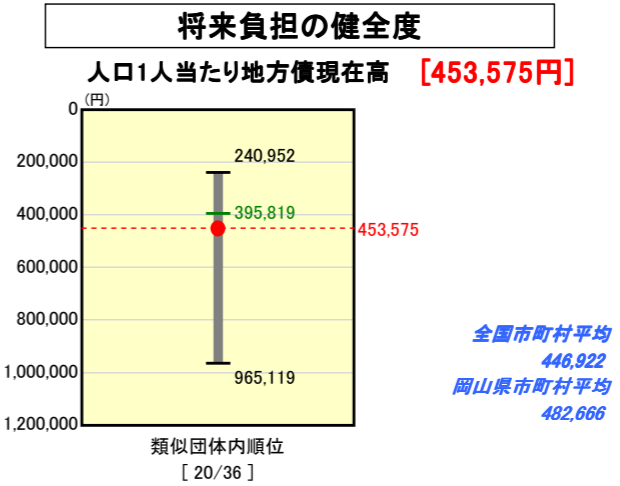
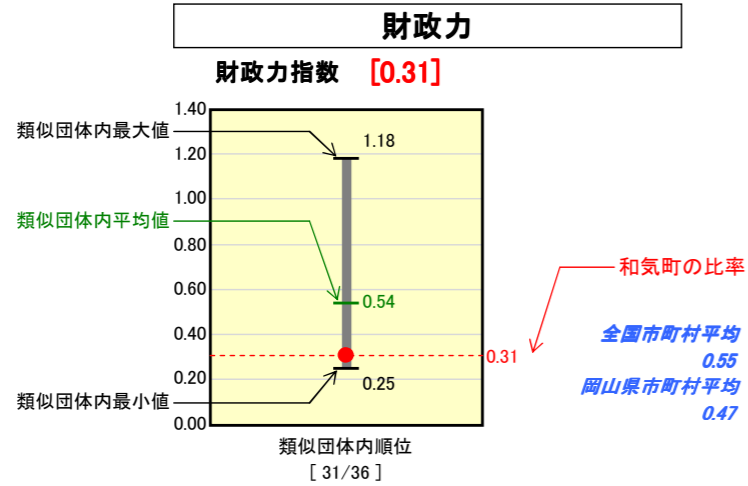


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

岡山県 和気町

人口	16,200 人(H20.3.31現在)
面積	144.23 km ²
歳入総額	8,363,495 千円
歳出総額	7,591,215 千円
実質収支	666,588 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】
大規模事業所、主要事業等に乏しい地域であることに加え、人口の減少や高齢者の増加等により財政基盤が弱く、類似団体平均を下回っている。企業誘致を積極的に取り組み、雇用、税収の確保に努める。

【経常収支比率】
前年度に引き続き類似団体内順位が最低となった。指数は前年に比べさらに2.0%悪化した。指数算出における主な悪化原因として、歳入では普通交付税、臨時財政対策債の減額の影響。また、歳出では老人保健事業会計に対する繰出金の増額があげられる。集中改革プラン、財政計画等に沿った徹底的な事業の見直しや適正な人員管理を行い、経常経費削減に努めているところではあるが、今後は歳出面の更なる見直し、及び税収の確保に努め弾力性のある健全な財政構造への転換を図る。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】
前年度に比べ、若干の増額である。主な原因は、補助を受けて推進する合併に関する経費が増額となっていることである。人件費については、徐々にではあるが、合併や定員の適正化の効果が表れ、前年に比べ減額となっている。

【ラスパイルズ指数】
類似団体、全国平均に比べ低い状況である。今後も定員管理、給与の適正化に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】
類似団体に比べ若干高い水準であり、前年度とほぼ同額である。補償金免除繰上償還を借換えなしで行い、現在高の減少に努めている。また、新規の地方債については、新町建設計画、各種財政計画に基づくものを発行するが、実際に事業実施、起債発行を行うにあたっては、事業の必要性、緊急性を再考したうえで、慎重かつ計画的に実施する。

【実質公債費比率】
類似団体、全国平均に比べ、実質公債費比率は高い水準にある。前年度と比較すると1.4%改善しているが、これは公債費に都市計画税が充当できるように算出方法の変更があったためであり、下水道事業会計に対する繰出金が多額であること等、根本的な状況に変わりはない。今後、大規模事業が控えているが、公債費負担適正化計画等を基に新規の起債発行については、慎重かつ計画的に行うよう努め、比率の改善を図る。

【人口1,000人当たりの職員数】
類似団体平均と比べ若干職員数が多い状況である。部門別に見ると特に幼稚園、小学校と施設数が多いため、教育部門の職員数が多い。